

## 7. 産業連関分析に用いる係数（算出方法）

係 数 名	算 出 式	説 明
投入係数表	$\frac{\text{各部門毎の投入額}}{\text{各部門毎の投入額計(=生産額)}}$	列部門の生産額に対する各部門の投入額の割合で、1単位の生産を行うために必要な各部門からの投入比率を表す。
特化係数	$\frac{\text{県内の生産額に対する各部門毎の構成比}}{\text{全国の生産額に対する各部門毎の構成比}}$	全国の各部門の構成比に対する県の各部門の構成比の比率。結果が1以上の場合は県の特色ある産業(特化産業)といえる。
中間投入率	$\frac{\text{各部門毎の中間投入額計}}{\text{各部門毎の投入額計(=生産額)}}$	生産額に占める原材料費等の中間投入の割合。
粗付加価値率	$\frac{\text{各部門毎の粗付加価値額計}}{\text{各部門毎の投入額計(=生産額)}}$	生産額に対する粗付加価値額の割合。 中間投入率+粗付加価値率=1
移輸出率	$\frac{\text{移 輸 出 額}}{\text{生 産 額}}$	生産額に対する移輸出額の割合。
移輸入率	(1) 対生産額移輸入率 $\frac{\text{移 輸 入 額}}{\text{生 産 額}}$ (2) 対県内需要額移輸入率 $\frac{\text{移 輸 入 額}}{\text{県内需要額(=中間需要額+最終需要額-移輸出額)}}$ (3) 対総需要移輸入率 $\frac{\text{移 輸 入 額}}{\text{総需要額(=生産額+移輸入額)}}$	生産額に対する移輸入額の割合。 県内需要額に対する移輸入額の割合。 総需要額に対する移輸入額の割合。 ※通常、移輸出品には移輸入品は含まれないという前提に立つため(2)を採用。
自給率	$1 - \text{移輸入率}$	県内需要額に対する県内生産額の割合。
影響力係数	$\frac{\text{各部門の逆行列係数の列和}}{\text{全部門の逆行列係数の列和平均}}$	特定部門の需要に対して他部門へ与える影響の度合いを表すもので、その割合が大きいほど影響力が強い。
感応度係数	$\frac{\text{各部門の逆行列係数の行和}}{\text{全部門の逆行列係数の行和平均}}$	各部門に1単位ずつの需要があった場合に特定部門が受ける影響の度合いを表すもので、その割合が大きいほど他部門からの影響を受けやすい。

係 数 名	算 出 式	説 明
生産誘発額	輸出以外： 逆行列係数×自給率(対角行列) ×県内最終需要額(行列) 輸出： 逆行列係数×移輸出額(列ベクトル)	最終需要によって誘発される県内生産額。
生産誘発係数	最終需要部門別の $\frac{\text{産業部門別生産誘発額}}{\text{最終需要部門計}}$	各最終需要部門における産業別の生産誘発額の割合で、生産誘発の度合いの大小を知ることができる。
生産誘発依存度	各産業部門別の $\frac{\text{最終需要部門別生産誘発額}}{\text{最終需要部門別生産誘発額計}}$	各産業部門毎の最終需要部門別生産誘発額の構成比で、各最終需要部門によってどの程度誘発されるかが分かる。
粗付加価値誘発額	生産誘発額(行列)×粗付加価値率(対角行列)	最終需要によって誘発される粗付加価値額。
粗付加価値誘発係数	最終需要部門別の $\frac{\text{産業部門別粗付加価値誘発額}}{\text{最終需要部門計}}$	生産誘発係数・生産誘発依存度と同じ。
粗付加価値誘発依存度	各産業部門別の $\frac{\text{最終需要部門別粗付加価値誘発額}}{\text{最終需要部門別粗付加価値誘発額計}}$	
移輸入誘発額	{投入係数(行列)×生産誘発額(行列) + 県内最終需要額(行列)}×移輸入率(対角行列)	最終需要によって直接・間接に誘発される移輸入額。
移輸入誘発係数	最終需要部門別の $\frac{\text{産業部門別移輸入誘発額}}{\text{最終需要部門計}}$	生産誘発係数・生産誘発依存度と同じ。
移輸入誘発依存度	各産業部門別の $\frac{\text{最終需要部門別移輸入誘発額}}{\text{最終需要部門別移輸入誘発額計}}$	